

太平洋クロマグロ資源管理 合意ならず

2011年7月20日 みなと新聞 掲載

7月4日から8日まで、米国ラホヤ市で開催された全米熱帯まぐろ類委員会（IATTC）で、日本は、科学委員会の勧告に従って、カナダ、中国、台湾、韓国、米国とともに、太平洋クロマグロの規制措置を提案した。しかし、メキシコが反対し、否決された。OPRTは、オブザーバーとして会議に参加し、議論の経過を見守ったが、メキシコの頑迷ぶりにあきれた。

メキシコは、クロマグロを獲っているので規制は受け入れられないと、臆面も無く主張。挙句の果てには、規制の科学的根拠も足りないとし、なりふり構わず、提案に反対した。今更、科学的根拠が足りないなど、理由にならないとEUに、たしなめられる始末。

規制といっても、その本質は、持続的に、安定的にクロマグロを利用するため、資源が悪化する前に、獲りすぎないようにしようというもので、メキシコが理屈抜きで頑なに反対するのは不可解だ。

環境保護団体は、管理措置を決めることが出来ないのはIATTCに資源管理能力が無いことを示すと厳しく批判。矛先は、いつものように、メキシコのクロマグロの輸入国日本の無責任さをなじる発言につながった。管理できないなら、クロマグロは市場から締め出せとも主張。

カナダは、IATTCで管理できなければ、ワシントン条約（CITES）が介入し、厳しい事態ともなりかねないと警告し、日本とともに、メキシコに強く妥協を求めた。だが、メキシコは断固として譲らなかった。

日本を初めとする規制の提案国は、事態に懸念を表明、資源の持続性確保にあらゆる措置を検討していくとの共同声明を発表した。このままでは、IATTCはマグロ資源管理機関としての無能ぶりを天下にさらし続け、CITESの餌食にもなりかねない。

解決の鍵は、環境団体に言われるまでも無く、市場国の日本が握っている。日本市場を失ったメキシコのクロマグロの行く先は米国・EUだが、いずれも、共同提案国として、メキシコのクロマグロの輸入はできない。国際社会の市場力がメキシコを翻意させるだろう。いずれにしても、メキシコが翻意しない限り、日本は同国のクロマグロを輸入すべきでは無い。資源管理に向けた国際合意の形成を阻む国のマグロを輸入することは、マグロ法の問題にも反する。第一、いつまでも、日本が買うから悪いと悪者呼ばわりされたくない。